

一、施行ノ時

清源寺、上沖洲兩部落ハ大正九年十月十六日ヨリ同十年四月十二日迄 殘餘部落ハ目下繼續中
二、施行スルニ至リシ由來

既往三十ヶ年間(自明治二十四年至大正九年)ノ流行狀況ヲ檢スルニ患者累計二百四十四名ニシ
テ、明治三十六年及同四十一年ノ二ヶ年ヲ除キテハ殆ト繼續的ニ流行セリ、其ノ慘況ニ鑑ミテ病
原體保有者ノ調査ヲ開始セリ

三、施行ノ内容

(イ)病原體保有者調査 検査方法——一日二十五名内外ノ糞便ヲ採取セシメ縣ヨリ給與ノ一定容
器ニ收メ村吏員ヲシテ検査所ニ運搬セシメタリ

被検査人員——清源寺區八五九名内病原體保有者三名發見(内一名ハ同一糞便ヲ分チテ送附シ
タルモノ)、上沖洲區六五八名内病原體保有者一名發見(管テ腸チフス患者トシテ收容セラレ全
治退院後四十日目ノ者)

検査終了人員數合計一五一七名ニシテ發見シタル病原體保有者數三名

被檢人員數ニ對スル病原體保有者發見率ハ〇・二九%ナリ

備考 一、調査開始前ニ隔離中ノ患者七名ニ對シテ「ワイドール」反應ヲ檢シ確實ニ陽性成績ヲ呈スルコ
トヲ確メ置キタリ

二、糞便採取上困難ヲ感スルコトアルニ鑑ミ検査ノ意義ヲ徹底セシメ村民ノ和協一致ヲ促進ス
ル爲、各部落ノ検査開始前ニ講話會ヲ開催シタリ

三、發見シタル病原體保有者ニ對シテハ特ニ郡役所、警察署ニ通牒ヲ發シテ病毒ノ散莖ヲ豫防シ
細菌學的検査ニ同陰性トナルニ及ヒテ警戒ヲ解除シタリ

(ロ)一般ノ衛生思想向上——一般ニ衛生思想ヲ喚起セシムル爲衛生講話會ヲ開催シ尙病原體保有
者ノ検査ヲ終了シタル部落ノ下水流ノ一齊消毒ヲ施行セリ

(ハ)豫防接種——病原體保有者調査終了ノ二部落一、三〇〇名及小學校生徒五〇二名ニ對シ、大正十
二年二月下旬中ニ腸チフス「感作」ワクチンヲ注射セリ

四、實施効果ノ説明

検査終了ノ二部落モ日尙淺ク効果ノ確信スヘキモノナシト雖、同村ノ既往九ヶ年間ニ於ケル毎
年初發ノ月日ヲ檢スレハ左ノ如シ

大正元年四月十五日	同	二年六月二十二日
同 三年一月二十日	同	同 四年一月一日
同 五年一月二十二日	同	同 六年五月三日
同 七年一月十三日	同	同 八年一月十三日
同 九年六月二十六日		(調査ハ發病報告ニ依ル)

之ニ依リテ案スルニ本村ノ如キ慢性流行地ニ對シテハ豫防施設ハ其ノ効果ヲ短時日ニ期待シ
難シト雖、本年度ニ於テ今(五月下旬)ニ至ルモ發病者ナキハ本施設施行上何等カノ効果的意義ヲ
認メシムルニカアル證左ニハアラサルカト囑望シツツアリ

六 其ノ他ノ施設ニ因ルモノ (二例)

第一例 富山縣東礪波郡出町及西礪波郡林村鷹栖村

一、施行ノ時

大正二年六月十四日ヨリ同年八月十五日迄
二、施行スルニ至リシ由來

出町及附近村落ハ多額ノ費用ヲ投シテ井戸ヲ掘鑿スルモ容易ニ飲料水ヲ得ス、爲メニ住民ノ多數ハ河水ヲ飲用ニ供セル結果毎年夏季ニ於テ腸チフス流行スルヲ例トセリ、就中大正二年ハ出町ヲ中心トシテ東礪波、西礪波兩郡ニ亘リ流行シタルヲ以テ多ク河水ヲ飲用セル出町、林村、鷹栖村ニ對シ第三項ノ如キ施設ヲ爲シタリ

三、施設ノ内容

次ノ如キ縣令ヲ發布シテ關係河川水ノ飲用又ハ使用ヲ禁セリ

富山縣令第四十四號

腸チフス豫防上必要ト認メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十九條ニ依リ左ノ水流ニ於テ漁撈游泳ヲ爲シ又ハ煮沸セサル同流ノ水ヲ飲食ノ爲ニ使用シ若クハ食料品及食器、衣類、臥具等ノ洗滌用ニ使用スルコトヲ停止ス

本令ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年六月十四日

富山縣知事 濱田恒之助

一、東礪波郡出町、西礪波郡林村及鷹栖村地内ニ於ケル若林用水、三谷屋川、狐島江及其支流
四、實施効果ノ説明

前項ノ施設ニ依リ七月ニ至リテ患者發生數ハ漸次減少セリ

出町、林村、鷹栖村豫防施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口	現死亡數	施設實施以前					同上以後			備考
		明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年		
一、八四一	九、七八七	一、七三六	一、七四一	一、七八四	一、八〇三	一、八六九	一、八五五			
九、七八七	二〇九	九、八〇〇	一〇、〇四九	一〇、一六二	一〇、二九二	一〇、三〇二	一〇、四五七			
人口千ニ對スル死亡數	二・三五	二・八二七	二・二六九	二・二一六	二・三三五	二・三九一	二・三一九			
腸チフス患者數	一一	一一	四	六一	一	四	三			
人口萬ニ對スル患者數	一一・二四	一一・二四	三・九八	六〇・〇三	〇・九七	三・八八	二・八七			
腸チフス死亡數	三	三	三	一〇	一	一	一			
患者百ニ對スル死亡數	二五・〇〇	二五・〇〇	七五・〇〇	一八・三九	一一・三三	一一・三三	一一・三三			

第二例 廣島縣福山市長者町

一、施行ノ時及其ノ内容

大正九年九月十一、十二兩日間ニ於テ患家ハ勿論患家以外ノ家ニ對シテモ全部患家ニ準シテ消毒ヲ爲シ、尙十三、十四兩日間ニ於テ各戸ノ飲用水及井戸ニ對シ石灰消毒ヲ施行シ、更ニ十五、十六兩日間ニ於テ便池及下水溝ニ對シ同様消毒ヲ爲シタリ

二、施行スルニ至リシ由來

大正九年七月廿五日發見ニ係ル腸チフス患者一名カ脚氣併發ノ爲ニ重態ニシテ止ムヲ得ス自宅治療中、偶々八月十六日大洪水ニ際會シ同家竝ニ八月十三日頃發病シ未發見ノ儘ナリシ患家等病毒雨水ニ混入シテ飲料水道ニ浸入シ遂ニ九月十、十一兩日ニ於テ一時ニ二十五名ノ患者ヲ

發見スルニ至レルニ由ル
三、實施效果ノ説明

實施後ハ九月十八日一名、同二十三日一名、十月三日三名計五名ノ患者發生アリタルノミ

施設實施前後ノ衛生狀況

施設實施以前	同 上 九 月 以 前	同 上 九 月 以 後	現 住 戶 口 數		現 住 人 口 數		總 死 亡 數		腸 胃 患 者 數		腸 胃 患 者 對 死 亡 數	
			數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
六三	六三	六三	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
二三五	二三五	二三五	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
一一四・〇四	一一四・〇四	一一四・〇四	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六	一一七・六六

第八 爆發的流行又ハ特殊的流行

府縣ニ於テ爆發的流行又ハ特殊ノ流行ヲ來セル例尠ナカラス、之カ原因亦種々ナリト雖主タル原因ト認ムヘキモノニ依リ之ヲ分テハ

- 一、飲用水、使用水ニ病毒混入シタルニ因ルモノ
- 二、初發患者ノ診斷遲延ニ因ルモノ

三、醫師又ハ患者ノ隱蔽ニ因ルモノ

四、初發患者流行性感冒ト誤認シ醫療ヲ受ケタリシニ因ルモノ

五、其ノ他ノ原因ニ因ルモノ

ニシテ就中飲使用中ニ病毒混入セルニ因ルモノ最多ク、就中主タルハ汚染流水ノ飲使用ニ因ルモノナリトス、次テ多キハ初發患者ノ診斷遲延シタルニ因ルモノナリトス、而シテ本病豫防上參考ト爲ルヘキ流行例ヲ採録スレハ左ノ如シ

一 飲料水、使用水ニ病毒混入シタルニ因ルモノ (九例)

第一例 東東府西多摩郡平井村

大正七年三月ヨリ同年五月ニ亘リ同村ニ於テ共同井水ニ病毒混入シタル爲爆發的流行ヲ來セル事例アリ、其ノ狀況ノ大要ヲ記セハ左ノ如シ

一、流行ノ概略
流行地ハ平井村ノ一部落ニシテ同一井水ヲ使用セルモノ十六戸七十一人アリシカ、大正七年三月廿三日初發患者ノ發生ヲ見、次テ四月一日ニ至リ一時ニ十七名ノ患者ヲ出シ爾來續發患者三十七名、病原體保有者二名ヲ出シテ五月十四日ニ至リ漸ク終熄セリ

二、傳染系統

本流行ノ傳染系統ハ第一患者小川某ノ家ニ於テ患者ノ兄カ隣縣ニ出稼中同年二月病ヲ得テ歸郷シ、之ヨリ第一患者ニ傳染スルト共ニ、患者ノ後方ニアリテ地盤低キ共同井水ニ病毒混入

シテ斯ク多數ノ患者ヲ出シタルモノト認メラル、同一部落ニ居住スルモ井水ヲ異ニシタルモノニハ一名モ罹病シタルモノナク、又同井水ヲ使用セル十六戸中ニハ相前後シテ各戸悉ク發病者ヲ出シタリ

第二例 埼玉縣秩父郡高篠村

同村ニ於テハ大正九年中現住人口四、一四六ニシテ患者五十三名ヲ出シ、其ノ人口萬ニ對スル患者發生率ハ實ニ百二十七人八分餘ニ當レリ

同村ハ山間ノ一小寒村ニシテ衛生思想極メテ幼稚ナルノミナラス、土地濕潤ニシテ飲料水ハ多ク溪水ヲ使用スルニ依リ此ノ溪水ニ病毒侵入セル關係上大流行ノ原因ヲ爲セルモノノ如シ、又便所汚水溜等ノ構造等不完全ニモ原因スル模様ナキニアラス

第三例 山梨縣中巨摩郡貫川村

本村ハ甲府市ニ近接シ戸數四百六十五戸人口約二千人ヲ有ス、大正十一年三月同村ニ於テ共同井水ノ汚染ニ因リ患者百五十名内死亡十七名、病原體保有者二十四名ヲ出シタル爆發的流行ナリ

一、發生部落ノ飲用水、雜用水

患者發生ノ最多數ナリシ區域ニ於テ五十九戸ハ一個ノ共同井水(甲)ヲ用ヒ、他ノ五十一戸ハ三個ノ共同井水ヲ用ヒ、雜用水ハ各戸共附近ノ小溝ニ流ルル水ヲ用ヒタリ

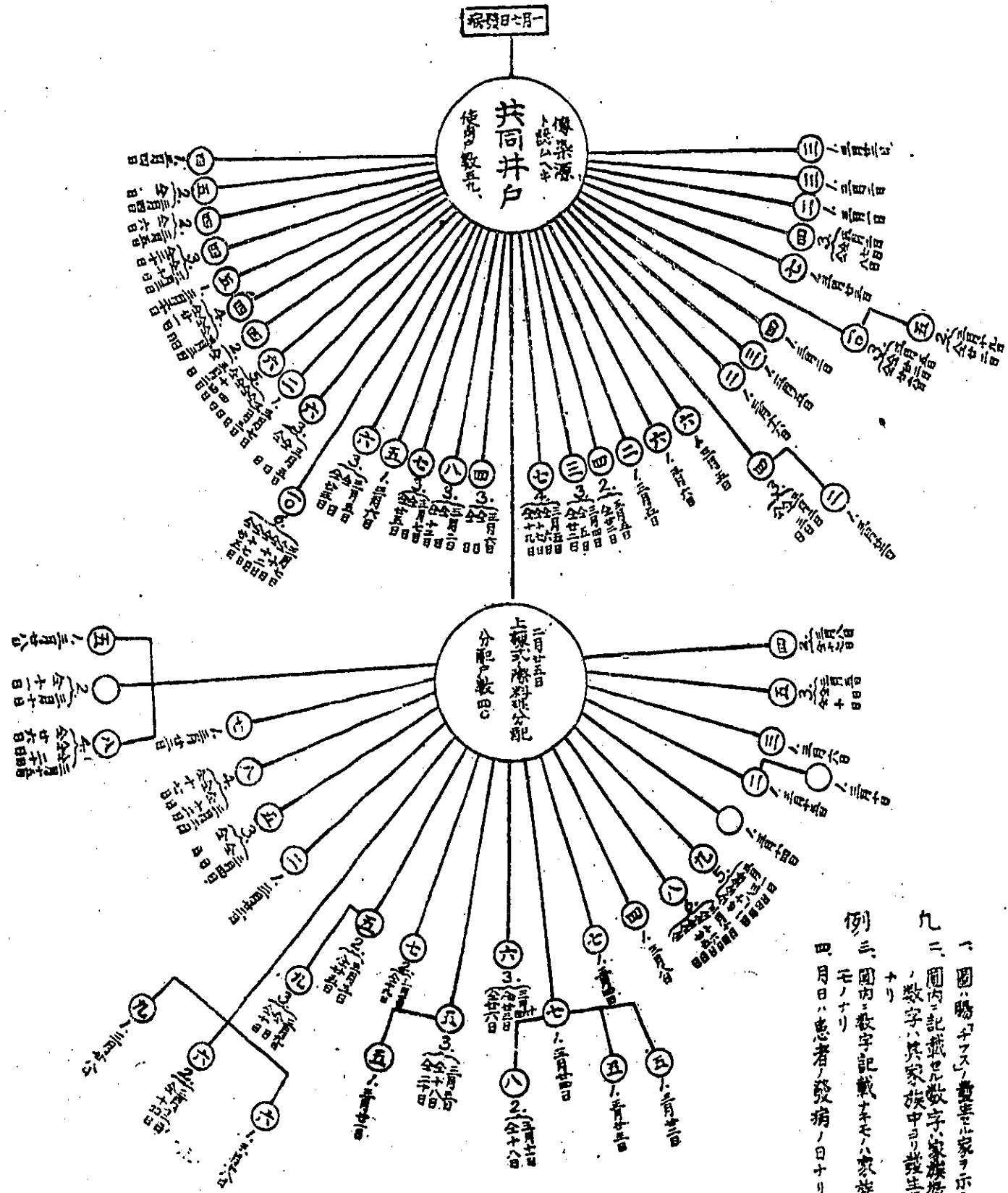
二、傳播ノ狀況及其ノ原因

三月十三日醫師ヨリ四名ノ患者ノ血液検査ヲ縣ニ依頼シ來リ尙他ニ多數ノ患者アルヘキ疑

アリシヲ以テ檢病調査ヲ行ヒタルニ患家二十五戸ヲ發見セリ、此中發生ノ最早キハ三月一日ニシテ大多數ハ同日乃至五日ナリキ、而シテ此等患家ハ何レモ共同井水(甲)ヲ使用セルモノニシテ他ノ三個ノ井水ヲ使用セル家ニ於テハ一名ノ患者モ發生セサリシ事ヲ知レリ、且ツ發生ノ狀況突發的ナリシヨリ見レハ二月上旬ノ終リ乃至下旬ノ初メニ於テ井水(甲)中ニ病毒ノ侵入セルモノト思ハル、而シテ該井水ハ周圍ハ「コンクリート」ニテ固メアルモ汚水ノ浸入スヘキ破隙アリ、其ノ病原ニ付テハ該井水ヲ有スル一家族中昨年十一月ヨリ本年一月七日マテニ順次發生セル三名ノ熱性患者アリテ何レモ他ノ病名ノ下ニ治療セラレ居タリシカ、其ノ中一月七日ニ發病セル患者ハ三月十五日血液検査ニヨリ腸チフス患者タリシ疑充分アリ、且ツ同患者ノ看護ニ從事シタル者二月二日ニ同病ト診斷セラレタリ

尙附近家屋ノ上棟式ニ於テ該井水ヲ使用シタル折詰ノ配布ヲ受ケタル約四十戸ニ多數ノ患者突發シタル事情ニ徴スレハ前記患者ハ恐クハ腸チフスニシテ本爆發前其ノ病毒該井水ニ侵入セルモノナルヘシ、患者發生ノ狀況ヲ圖解スレハ左ノ如シ(本例ハ別途報告ニ依ル)

圖行流的發爆スヲヲ腸ルケ於ニ村川貢



一 圖ハ腸カスル者其家ヲ示スナリ
 九 二 圖内ニ記載セル数字ハ家族數ヲ示スナリ
 数字ハ其家族中ヨリ發症シ患者數
 ナリ
 例 三 圖内ニ数字記載ナキモノハ家族數不明
 モナリ
 四月日ハ患者ノ發病ノ日ナリ

第四例 宮城縣柴田郡村田町

大正七年ノ秋季ニ方リテ本邦ヲ席捲シタル流行性感冒ハ同年十二月中宮城縣ヲ侵襲シ翌八年春夏ノ候ニ跨リテ同縣内全部ニ流行シ殊ニ仙南地方ニ於テ猖獗ヲ極メ同年七月ニ入り漸ク終熄シタリ時ニ柴田郡亦猛烈ナル流行アリテ多數ノ患者ヲ出シ漸ク終熄セントスルノ期ニ方リ六月下旬ニ至リテ同郡村田町ニ於テハ流行性感冒罹病者ト稱シ就據中ノ熱性患者ニシテ腸「チフス」ニ疑ハシキモノヲ散見スルニ至レリ之ヲ檢索シ視ルニ時既ニ病毒ハ同部落ノ一圓ニ散蔓シタルモノノ如ク周窩ナル檢索ノ結果一時ニ患者百餘名ヲ發見シ茲ニ村田町ハ一大爆發的流行ノ巷ト化セリ右ハ主トシテ水流ノ關係ニヨリ猖獗ヲ極メタルモノニシテ凡有方法ヲ講シテ豫防撲滅ニ努メタルモ遂ニ患者累計二百七十一名ノ多數ヲ出シテ漸ク終熄ヲ告ケタリ而シテ之カ原因ハ主トシテ同部落ヲ貫通スル河水ノ使用ニ基ク所謂水流傳染ナリ

尙大正四年中同縣本吉郡氣仙沼町(患者百五十五名)志田郡古川町及高倉村(患者百〇八名)翌年中同縣牡鹿郡鮎川村(患者九十二名)等流行亦流水ノ飲使用ニ因セリ

第五例 青森縣上北郡野邊地町

大正九年ニ於ケル同町ノ患者ハ三十三名ニシテ九月十ノ二ヶ月最猖獗ヲ極メタリ然ルニ其ノ發生届出ハ發病後三四日ヲ經過セルノミナルモ事實患者ハ病性昂進シ苦惱甚シキニ迫ヒ始メテ醫師ノ診察ヲ乞ヘタルカ如シ

病毒蔓延ノ原因ヲ調査スルニ由來同町民ハ衛生思想至ツテ幼稚ニシテ患家トノ出入ハ勿論患者トノ飲食ヲ共ニシ加フルニ井戸ノ設置少數ニシテ一井戸ノ給水約三十戸ニシテ患家亦共同

シツツアリシ事實ヲ發見セリ

第六例 鳥取縣東伯郡倉吉町

同町ニ於テハ大正四年中患者百數十名發生シタル事例アリ、初發ハ同年二月上旬ニシテ五月下旬迄ニハ僅ニ十數名ニ過キサリシモ同町ハ地勢西南ヨリ東北ニ細長ク一條ノ小川ハ同町ヲ縱貫シ而カモ上水途ノ設備ナキヲ以テ町民ノ大部分ハ該水流ヲ用水トセルカ、偶々五月下旬上流ニ數名ノ患者發生スルヤ倏チ病毒ハ同町ニ蔓延シ、六月ヨリ八月迄ニ百三十餘名ノ患者發生シ十月下旬ニ至リテ漸ク終熄セリ、此ノ間ニ於ケル患者總數百六十四名内死亡十四名ヲ出シタリ同町人口一萬七十九人ナルヲ以テ人口ニ對スル患者ノ割合カ如何ニ多キカヲ知ルヘシ

第七例 同縣同郡上中山村及下中山村

大正八年八月下旬初メ上中山村ニ患者發生シ、水流ノ關係上漸次下流ナル下中山村ニ傳播シテ兩村ニ病毒蔓延シ、十月下旬迄ニ患者總數六十六名内死亡十八名ヲ出セリ、兩中山村ハ人口合計三千五百人ナルヲ以テ人口千ニ對シ患者十八名餘ニ當リ、又患者百ニ對スル死亡ハ二十七名ノ割合ヲ示セリ、蓋上中山村ハ山間僻陬ノ地ニシテ交通不便ナリ、加フルニ兩村ニハ現在醫師ナク從ツテ醫療充分ナラス、比較的高率ノ死亡者ヲ出シタル而已ナラス、最初患者ヲ發見シタルトキハ既ニ病毒廣ク瀰蔓シ居リ、爲ニ一時ニ多數ノ患者ヲ發見シタルモノナリ

第八例 福岡縣田川郡上野村赤池炭坑

右炭坑ハ大正九年末現在人口二千六百十八人ニシテ、腸チフス患者ハ大正七年五名、同八年一名、同九年十六名發生シ、同病豫防上注意警戒中ナリシカ、同年十二月中旬ニ至リ病名不詳ノ熱性患

者發生シ流行性感胃ナラントシテ警戒中同月下旬ニ至リ腸チフスノ疑ヲ生シタルヲ以テ細菌検査ヲ行ヒタルニ二名ニ對シ腸チフス菌ヲ認メ引續キ検査ヲ勵行シ一月十日ヨリ二月廿一日ニ至ル間ニ患者九十七名、病原體保有者五名ノ多數ヲ發生セリ、此間炭坑ニ於テハ警察官指導ノ下ニ假隔離室ヲ設ケ患者收容消毒係、健康診斷係、給與係、醫務係、設備係ヲ設ケ坑長以下ノ大活動トナリシカ、二月廿二日以後新患者ヲ發生セサルニ至レリ、同炭坑ハ前記ノ如ク毎年腸チフス患者發生シ居リシヲ以テ同坑ニ病毒アリシハ殆ント疑ノ餘地ナキモ、流行ノ狀況ハ一局部若クハ稼働者非稼働者ニ限定セスシテ全ク普遍的ナルニ依リ、其ノ原因ハ必ス共通的ノ事物アルモノノ如クナリシヲ以テ種々調査ノ結果飲料水ニ因ルモノナリトノ斷案ヲ下スニ至レリ

同坑飲料水ハ中元寺川ト稱スル川中ニ濾過裝置ヲ設ケ鐵管ヲ通シ電力ヲ使用シテ吸收供給シ居ルモノナルカ、同川ノ上流ニハ伊田、後藤寺、添田、其ノ他多數ノ炭坑ヲ有スル町村アリテ同川ノ水ヲ飲料ニ供スルハ最危險ナリ、然ルニ爆發十數日前右水源地並ニ貯水池ノ濾過裝置ニ故障ヲ生シ供給意ノ如クナラサル爲川水ヲ直接ニ吸收供給シ居リシ事實ヲ發見シ直ニ濾過裝置ヲ修繕セシメ水道鐵管内ヲ消毒シタル結果、豫防施設ノ勵行ト相俟テ終熄スルニ至レリ

第九例 熊本縣八代郡栗木村字赤根及字古園

流行ノ時期 大正九年五月ヨリ同年十二月ニ至ル期間
發生ノ狀況 本村ハ縣下八代郡ノ東北ニ位スル山間部ニ在リ、戶數赤根區四十七戶、古園區三十二戶ニシテ部落民ハ主トシテ農業及林業ヲ營ミ、生活程度最低ク且衛生思想ニ乏シク、傳染病ノ如キハ特ニ之レヲ隱蔽スルノ弊風アリ、部落内ニハ井戸ノ設備乏シク、住民ハ凡テ本村ノ中央ヲ

貫流スル小川ニ注ク谿流水ヲ飲使用ニ供セリ、然ルニ初發患者ノ發生シタル家屋ハ前記部落ノ内字古園區ノ最高地即チ谿流ノ上位ニアリ、而シテ右患家ハ前記ノ如ク食器其ノ他汚物ノ附著セル衣類等ヲ同谿流ニテ洗滌セルヲ以テ流水ハ病毒ニ汚染セラレ之ヲ使用シタル下流全部落ニ於テ一時ニ爆發スルニ至リタルモノナリ、今初發以來各月ニ於ケル患者ノ發生數ヲ擧クレハ左ノ如シ

栗木村腸チフス患死者月別發生表

月別	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
患者發生數	16	22	5	4	5	1	10	1	55
死亡數	1	4	7	1	1	1	3	1	23

備考 患者數欄ノ左側數字ハ疑似ノ數ヲ示ス

二 初發患者ノ診斷遲引ニ因ルモノ (六例)

第一例 長崎縣東彼杵郡大村町

大正九年十一月中當初五、六名流行性感胃ニ疑ハシク診斷シ難キ患者アリ、其ノ後検査ノ結果腸チフスト診斷引續キ同病者ヲ出シ、十數日ヲ經テ二十四名ノ患者ヲ發生セル事例アリ

第二例 千葉縣印旛郡中郷村

大正八年四月俄然十五名ノ患者發生シタルモ、時恰モ流行性感胃流行ノ當時ナリシヲ以テ、醫師ハ腸チフス患者ヲ發病當時流行性感胃ト診斷シ空シク經過シ居リシカ、其ノ後検査ノ結果腸チ

フスナリト診定セルモノニシテ遂ニ二十二名ノ患者ヲ出シタルモノナリ、此ノ爆發ハ御毘沙講ト稱スル部落民ノ會飲ニ因リテ助長サレタリ

第三例 同縣同郡酒々井町

大正九年八月同町ニ於テ死亡者某ヲ埋葬後、會葬セル者中二十數名ノ腸チフス患者ヲ出シタリ、右死亡者ハ腸チフス患者ニシテ之カ會葬ヲナシタル際多數感染シタルモノト認メラル

第四例 鳥取縣八頭郡西郷村大字北

大正九年七月中旬右部落ニ患者發生シ九月上旬迄ニ總數六十二名内死亡六名ヲ出セリ、同部落ハ人口五百三十三ニシテ人口百ニ對シ患者十一人六餘ノ多キニ達シ、實ニ同部落ノ各戸ハ殆ント患家ナラサルハナキノ慘狀ヲ呈シタリ、之カ豫防施設トシテ同部落民ハ素ヨリ附近住民ニ對シ豫防接種ヲ施行シ、水流ノ使用ヲ制限シ、蠅ノ驅除等ヲ勵行シタル結果他部落ニ蔓延セスシテ終熄セリ、而シテ如斯一小部落ニ於テ俄カニ多數ノ患者發生セシ原因ハ同部落ハ山間假陬ノ地ニ位シ交通最モ不便ニシテ他ヨリ醫師ヲ聘スルカ如キハ容易ナラス、僅カニ部落内ニ老齡ナル從來開業醫一名在リテ、當時流行性感胃猖獗中ナリシヲ以テ腸チフス患者ヲ發病當時流行性感胃ナリト診斷シタル結果、適當ノ措置ヲ講セザリシニ基ケルモノナリ

第五例 鹿兒島縣日置郡伊作村和田上部落

大正九年八月右部落ニ爆發的流行ヲ來シタル事例アリ、同部落ハ戶數二五三、人口一、二二五ヲ有シ、當時流行性感胃猖獗中ナリシヲ以テ、主治醫ニ於テモ腸チフス患者發病當時流行性感胃ト診斷セリ、而シテ右患者中ニハ臨床上殆ント腸チフスニ酷似セルモノアルヲ探知セシニヨリ、主治

醫及當該村醫ヲシテ立會ノ下ニ診斷セシメタルニ腸チフス患者ト決定セル者實ニ十一名ヲ發見スルニ至レリ

第六例 同縣肝屬郡鹿屋町高須部落

同部落ハ戶數五一四、人口二、四四九ヲ有シ、大正九年九月同部落ニ腸チフス患者ニ疑ヒアルモノ發生セルヲ探知シ、縣警察醫ヲ派遣シテ嚴密裡ニ其ノ眞否ヲ調査セシメタル結果、腸チフス患者數十名ヲ發見セリ、而シテ腸チフス患者ノ發病當時ニ於テハ流行性感冒ト診斷シ届出タルモノニシテ其ノ間ニ病毒蔓延セシモノト認ム

三 醫師又ハ患者ノ隱蔽ニ因ルモノ (二例)

第一例 千葉縣君津郡靜海村

大正八年冬季ヨリ同九年春季ニ亘リ同村ニ於テ流行性感冒流行シ死亡者相次クノ狀況ナリシカ病狀腸チフスノ疑アリタルヲ以テ警察醫ヲシテ診斷セシメタル結果、患者ノ大多數ハ腸チフスナルコト判明シタルモ、久シク隱蔽シ居リタル爲病毒全區ニ散蔓シ、遂ニ流行ヲ見ルニ至レルモノナリ

第二例 鹿兒島縣出水郡出水町

大正九年五月出水町(戶數二、八八〇、人口一、五四五)ニ流行性感冒流行シ多數ノ患者ヲ出スニ追ヒ、其ノ患者中ニ腸チフスノ症狀アル者アルヲ探知シ得タルヲ以テ、直ニ當該町醫ヲシテ主治醫ト共ニ診斷ヲ爲サシメタルニ、一時ニ腸チフス患者八名ヲ發見スルニ至レリ、然ルニ主治醫ニツ

キ精密調査スルニ、同醫ハ初發患者ノ家ト縁故ノ族柄ナル爲、情義ニ驅ラレテ腸チフス患者ナルコトヲ認知セシニ拘ラス之ヲ隱蔽シテ流行性感冒トシテ届出テ以テ傳播ヲ自由ナラシメタルモノナルコト明トナレリ

四 初發患者流行性感冒ト誤認シ醫療ヲ受ケサリシニ

因ルモノ (二例)

第一例 青森縣南津輕郡大鰐村

同村ニ於テ大正七年六、七、八、九、十、五ヶ月ニ亘リ四十七名ノ患者續發シタルカ、最初病性輕症ナリシ爲、何レモ流行性感冒ニ罹リタルモノト思料シ、速ニ醫師ノ診察ヲ受ケサリシヲ以テ其ノ間ニ病毒蔓延シ七、八、九ノ三ヶ月ハ殊ニ猖獗ヲ極メタリ、蔓延ノ原因前記ノ如ク初發當時ニ於テ感冒ト思料セルヲ以テ之カ豫防方法ヲ講セサリシト、加フルニ當時同村隔離病舎倒潰シ居リシヲ以テ患者ノ收容不能ナリシ爲メ自宅治療ヲ許可セルニ依リ豫防方法ノ不完全ナリシトニ在リ

第二例 同縣中津輕郡和徳村

同村ニ於テモ前記大鰐村ノ發生期ト同様ニシテ即大正七年七、八、九ノ三ヶ月ニ亘リ猖獗ヲ極メタルカ、是亦最初流行性感冒ノ發生當時ナリシヲ以テ腸チフス病ナルヲ知覺セシス醫師ノ診察ヲ受クルヲ怠リシニ因リ其ノ間病毒傳播シタルモノナリ、即蔓延ノ原因ハ醫師ノ診察ヲ受ケサル爲メ其ノ間豫防方法ヲ講セス、且同村ハ共同井戸ヲ使用シ或ハ用水ノ上流ニアリテ汚物洗滌ヲ爲セル結果タルヘク四十二名ヲ續發セシメタリ

五 其ノ他ノ原因ニ因ルモノ (五例)

第一例 千葉縣印旛郡阿蘇村

大正五年七月阿蘇村小學校教員某ハ腸チフス患者ナリト決定前、發病當時單ニ風邪ニ罹リタルモノト思惟シ登校教授ニ當リ居リタル結果、校内職員生徒及役場吏員ニ感染シ一時休校並ニ役場執務ヲ休止スルノ止ムナキ状態ニ陥リタリ

第二例 石川縣鳳至郡櫛比村字廣瀬

大正五年七月中右字ニ腸チフス患者一名發生シ漸次同村各字へ傳播シテ九月初メ迄ニ患者十四名ニ及ヒシモ漸ク終熄ノ状態ナリシニ、同月九日豪雨ノ爲メ諸河川大出水ヲ來タシテ沿岸各地ニ浸水シ、爲メニ井戸、便所等一面ニ海水シタルヲ以テ滅水後數日ヲ經テ爆發的ニ腸チフス患者二十四名發生セリ、隔離病舎ハ狹隘ヲ告ケ爲メニ假病舎ヲモ設ケ患者ヲ收容治療シ一面嚴重ナル豫防消毒ヲ施行セリ、初發以來ノ患者收容數三十八名、内全治二十六名、死亡十二名ヲ出シ同年十二月下旬漸ク終熄シタリ

第三例 鳥取縣東伯郡西郷村大字伊木及八屋

大正九年七月中旬ヨリ同月下旬ニ至ル僅カ十數日間ニ於テ右兩部落ニ於テ患者十七名ヲ發生シタルモ直ニ兩部落民並附近住民ニ對シ豫防注射ヲ施シタルニ注射後一名モ患者發生セサルニ至レリ、初メ二、三ノ患者發生スルヤ主治醫ハ腸チフストシテ村役場ニ届出タルモ、村當事者ハ經費ヲ要スルノ故ヲ以テ之ヲ傳染病トシテ取扱フヲ欲セス時日ヲ遷延セシカハ倏チ兩部落ニ

於テ十數名ノ患者發生スルニ至レルモノナリ

第四例 廣島縣一圓

同縣ニ於ケル腸チフス患者數ハ大正元年以降逐年幾分カ増加ノ傾向アリシモ大正七年ニ於テ俄然五、九一七人ノ多數ニ上リ未曾有ノ大流行ヲ來シタリ、而シテ同年一月ニ數十名ノ患者發生シ三月四月ニ於テ千名以上ノ多數患者發生シ五月ニ入りテ漸次減少セリ、又患者數ヲ市郡別トスレハ廣島市ノ發生患者數最多シ、比婆郡、安佐郡、佐伯郡、雙三郡、高田郡、吳市、甲奴郡、山縣郡順次之ニ次キ、其ノ他ノ二市九郡ニ於テハ少數ナリ、而シテ吳市以外ノ一市七郡ニ於ケル流行ハ一地方ヨリ漸次他ノ地方ニ蔓延シタルニアラスシテ俄然各地一齊ニ爆發的ニ流行シタルモノナリ、其ノ流行ノ原因ハ總テ地方ノ異ルニ從ヒ多種多端ナルコト多キヲ以テ本年ノ流行ニ於テモ現ニ或ル地方ニ於テハ病毒汚染ノ流水ニ因リテ病毒ノ蔓延セラレタリト認メラルモノ、又ハ飲食物ノ製造或ハ販賣ヲ業トセル家ニ於テ患者ヲ隱蔽セル爲病毒傳播セリト認メラルモノ等アリテ、全然單純ニアラサルモ主ナル爆發的流行ノ原因ヲ調査セルニ左ノ如シ

(イ)廣島市ニ於テ三月十五日ヨリ四月十五日ニ至ル一ヶ月間ニ發見セラレシ患者ノ傳染系統ヲ調査セルニ患者ト交通セル等ニ因リ傳染シタル事實アリシモ系統不明ナルモノ多シ、此等系統不明ナル患者ノ發病前三週間以内ニ於ケル食品及家用水ノ關係ヲ調査シタル所、此等系統不明ナル患者ハ左ノ數項ニ分チ得ルモノニシテ就中第一項ノモノハ食品關係中ノ七割ヲ占ムルヲ知レリ

鮭、煮肴等ヲ購入ノ儘更ニ煮灸セスシテ食シタルモノ及魚介類ヲ生ノ儘食シタル者(社囃タツ

ルモノ最多ク生魚ヲ食シタルモノ之ニ次ク

野菜類ヲ生ノ儘食シタルモノ

平素牛乳ヲ飲用セルモノ

新シキ野菜ノ漬物ヲ食シタルモノ

井水ノミヲ用キタルモノ

水道水ノミヲ用キタルモノ

井水ト水道水トヲ混用セルモノ

(口) 廣島市外ニ於テ發見セラレシ患者ニ就テ調査シタルニ患家ト交通セル等傳染系統明ナルモノ尠ナク不明ナルモノ多シ其ノ不明ナル患者中發病前ニ食シタル食品ノ明瞭ナルモノノ中發病前三週間以内ニ於テ生魚ヲ食シタルモノ最多ク牡蠣蒲鉾ヲ食シタルモノ之レニ次ケリ右生魚牡蠣蒲鉾等ノ產地ハ瀬戸内海ヨリ朝鮮近海ニ至ル間ニ於ケル沿岸各地ニシテ其ノ一地方ニ於テ生魚ノ病毒ニ汚染セラレタルモノアリシト假定スルモ獨リ本縣ニ於テラノミ流行ノ原因トナルヘキモノニアラス然レトモ縣下ニ於テ消費セラルル牡蠣ノ產地ハ廣島市附近ノ數ヶ町村ニ過キス而シテ捕獲セル牡蠣ハ一時此等ノ地ニ貯藏シテ之ヲ販賣シツツアリ而シテ其ノ販路ハ前記ノ腸チフス爆發的流行地ト一致スルカ故ニ其ノ原因ヲ牡蠣ト認メタリ依テ爾來牡蠣ノ置場ヲ變更セシメ此ノ地ニ對シテハ特ニ常時防疫上警戒ヲ爲シツツアリ

第五例 福園縣鞍手郡下境村明治炭坑第三坑

右炭坑ハ大正九年未人口一〇〇六ヲ有シ腸チフス患者ハ大正六年一名同七年二名同八年二名

發生シ稍々佳良ナリシニ大正九年五月初旬俄然二三名ノ患者ヲ發生シ其ノ症狀多クハ午後惡寒頭痛咳嗽腰痛等ヲ訴ヘ居リタルカ其ノ體温三十七度内外ニシテ特記スヘキ症狀ヲ認メス爲メニ流行性感冒トシテ治療ヲ繼續シ居リタル處五月十五日頃ヨリ患者増加シ二十日ニ至リ二十九名ノ多キニ達シ稍々高熱ヲ持續スルモノ尠カラズ越エテ廿四日ニ至リ患者總數四十五名ニ及ヒ益蔓延ノ兆アリ殊ニ臨床上腸チフスニ疑ハシキモノ數名發見シ同坑ニ於テ細菌検査ヲ行ヒタルニ殆ント全部腸チフス陽性ノ成績ヲ得タルヲ以テ初メテ相當處置及病毒蔓延防止ノ方法ヲ講シタルモノナリ爲ニ同炭坑ニ於テハ警察官署指導ノ下ニ防疫ニ活動シ六月二日發生届出ヨリ七月廿一日マテノ間ニ患者七十四名内死亡六名病原體保有者十三名ヲ出シテ終熄スルニ至レリ

流行ノ狀況ハ普遍的ニアラスシテ限局的ナリ即本炭坑ハ女浴場ヲ三種ニ區別シ居リ即チ役員關係者婦人用普通婦人用及特種婦人用是ナリ然ルニ初期ニ發生シタル患者五十名ノ内小兒二名(七歳ト十四歳)ヲ除クノ外何レモ普通婦人用ニ入浴シ居リタル婦人ニシテ該小兒二名モ同湯ニ入浴シ居リタル事實アルモノニシテ其ノ後發生シタル男子ハ總テ家族傳染ナリキ水源ハ同一ナルモ浴場ハ三種ニ區別シアリシモノナルヲ以テ普通婦人用浴場ニ於テ病原體保有者若クハ輕症患者入浴シ浴場ヲ汚シタルニ因ルモノナラント思料セラレタリ

第九 從來ニ於ケル道廳府縣ノ患者治癒後ノ病原體

保有者並其ノ他ノ病原體保有者ノ取締方針及

此等ニ關スル調査表

從來ノ道廳府縣ニ於ケル腸チフス患者治癒後ノ病原體保有者ノ取扱方法ハ頗ル區々ニシテ多クハ警察官署市町村役場等ニ訓令ヲ發シテ退院退舍後又ハ自宅療養患者ノ治癒シタル後約一ヶ月間尿尿ノ消毒其ノ他ノ事項ヲ實行セシメ居リ又ハ單ニ解熱後一定ノ期間ヲ經過セサレハ全治届ヲ出ササル様醫師會ト協定シ以テ病毒散蔓防止ニ努メ居ルモ四五府縣ニアリテハ患者臨床治癒ノ際原則トシテ尿尿ノ細菌検査ヲ施行シ其ノ陽性ヲ證明スル間ノ一定期間ハ退院退舍セシメス其ノ期間經過後ハ之ヲ退院退舍セシムト雖病原體保有者トシテ取扱ヒ訓令其ノ他ニ於テ一定ノ取締條項ヲ規定シテ之ヲ適用シ居レリ而シテ此等ニ關スル取締條項ハ之ヲ規定セル各府縣ニ於テモ繁簡一樣ナラス健康病原體保有者ノ取扱亦前者ニ準セリ道廳府縣ニ於テ病原體保有者取締條項ヲ規定セルモノ並病原體保有者検査成績表ノ二三ヲ示セハ左ノ如シ

一 病原體保有者取締規定例 (七例)

第一例 大阪府 (明治四十二年一月十五日醫第四六號)

一 保菌者ノ家ニハ常ニ法定昇汞水及石灰末ヲ準備セシムルコト

一 保菌者上圍ノ都度昇汞水ヲ以テ手ヲ消毒セシメ尙糞池ニ對シテハ其都度石灰末ヲ撒布セシムルコト

一 所轄警察派出所若ハ駐在所ニ於テハ保菌者ヲ注意人名簿ニ編入シ置キ常ニ家族及交通關係アル者並其附近ノ健康狀態ヲ視察シ腸窒扶斯患者又ハ其疑アル者ノ有無ニ注意セシムルコト

第二例 三重縣 (大正九年八月衛第七七七號通牒)

一 帶菌者ハ別棟若クハ別室ニ隔離スルコト

二 帶菌者ハ努メテ清潔ニスルコト

三 帶菌者ハ起床時食事前上圍後ハ必ス五千倍昇汞水ニテ手ヲ丁寧ニ洗フコト

四 帶菌者ノ大小便ハ石灰糞灰等ヲ撒布スルコト

五 帶菌者ノ飲食用器ハ專用トシ用後ハ熱湯ヲ注クコト

六 帶菌者ハ入浴前五千倍昇汞水ニテ局部ヲ拭フコト

七 帶菌者ノ寝衣夜具等ノ洗濯ハ熱湯ヲ充分ニ注キ後水ニテ洗フコト

八 帶菌者ハ醫師ニ就テ除菌ノ手當ヲ受クルコト

九 帶菌者アル家族ハ帶菌者ト同様ノ豫防(第一項ヲ除ク)方法ヲ爲スコト

第三例 山形縣 (大正六年十月二十五日各警察官署長宛訓達)

一 患者全治退院後健康者ト尿尿管器ヲ異ニシ便器肥桶ヲ以テ之ニ充テ且覆蓋ヲ用ユル事
二 前項ノ尿尿ハ消毒スルニ非サレハ他ニ運搬シ又ハ肥料ニ供セシメサルコト

- 三 糞便ハ上圖ノ都度生石灰末ヲ以テ消毒ヲ行ハシムルコト
- 四 前三項ハ全治退院ノ日ヨリ少クモ三十日間之ヲ繼續セシムルコト
- 五 消毒藥品ハ成ヘク市町村又ハ衛生組合ヨリ供給セシムルコト
- 六 市町村吏員及警察官吏ハ五日毎ニ退院者ノ家ニ臨ミ消毒ノ適否ヲ監督シ其周到的確ヲ期スルコト

第四例 廣 島 縣 (大正七年五月指示中保菌者取扱條項)

- 一 保菌者ノ居室、寢具、衣類、飲食器、洗面器及手拭等ヲ他ノ家族用ト區分シ其飲食器、洗滌前煮沸消毒ヲ行ヒ衣類類等ヲ洗滌セシムル時ハ豫メ蒸氣消毒、煮沸消毒又ハ藥品消毒ヲ行フコト
- 二 保菌者ハ飲食物ノ調理及飲食用具ノ洗滌等取扱ニ關係セサルコト
- 三 保菌者ハ接客業ニ從事セサルコト
- 四 保菌者ハ共同浴場ニ於テ入浴シ又ハ理髮店ニ於テ理髮セサルコト
- 五 保菌者居宅ニ於テ入浴スル場合ハ家族ノ入浴ヲ了リタル後入浴シ其浴場ハ消毒方法ノ施行ヲ完了シタル後ニアラサレハ之ヲ放流又ハ棄却セサルコト
- 六 保菌者ハ宴會等集會ニ列席セサルコト
- 七 保菌者ハ成ルヘク旅行シ又ハ他ニ宿泊セサルコト但シ已ムヲ得サル事由ニテ旅行シ又ハ他ニ於テ宿泊セムトスルトキハ豫メ其旨所轄警察官署ニ届出シメ所轄警察官署ニ於テハ之ニ對シ相當ノ豫防措置ヲ爲スコト
- 八 保菌者ノ使用スル便所ヲ一定シ其便池内ニハ毎日一回以上規定量ノ石灰乳ヲ撒布シ之ヲ

搬出シ肥料ニ供スルニ先チ攪拌シ七日間以上一定ノ溜ニ止ムルコト

- 八 便所及適當ノ場所ニ消毒藥液ヲ設備シ保菌者ハ排便後其ノ他時々手指ヲ消毒スルコト
- 九 保菌者ノ居室、便所ノ戸等其觸接スル個所ハ時々消毒藥液ヲ浸セル布片ヲ以テ擦拭スル事
- 十 保菌者アル家ニ於テハ他人ニ飲食物ヲ供セサルコト
- 十一 保菌者ヲ發見シタルトキ及其無菌ト決定セラレタルトキハ其家屋ニ對シ患家ニ準シテ消毒方法ヲ行フコト
- 十二 保菌者ニ對スル豫防上必要ナル消毒藥ハ市町村ニ於テ供給シ且個人ニ於テ完全ニ施行シ得スト認ムル消毒方法ハ市町村ニ於テ直接之ヲ施行スルコト
- 十三 保菌者ノ糞便ハ五日以内毎ニ當廳衛生課ニ送付シ検査ヲ受ケ無菌ノ通知ヲ受クル迄右事項ヲ繼續スルヲ要ス

第五例 和歌山縣 (大正六年八月各警察官署長通牒)

- 一 解熱後五日以降毎日検査材料ヲ採取シ送付スルコト
- 二 引續キ三回陰性ナルトキハ退院又ハ退舎セシム
- 三 土地ノ狀況其ノ他特別ノ事由ニ依リ檢鏡材料ヲ送付スルコト能ハサルトキハ臨床上ニ於ケル主治醫ノ確診ヲ俟テ退院セシムルコトヲ得但此場合ハ其事由ヲ直ニ報告スルコト
- 四 長期ニ涉リ菌ノ消失セサル者ハ自宅治療ヲ許可ス此ノ場合ハ左記ノ如ク取締レリ
- 一 保菌者ハ一定ノ場所ニ隔離シ便所ヲ別ニス其他飲食器、手洗鉢等ハ他ト嚴ニ區別シ消毒スルコト

- 二 便所ニハ毎回消毒液ヲ投シ手洗鉢ニハ消毒液ヲ使用スルコト
- 三 居所ヲ轉シ又ハ旅行スル時ハ必ス警察官吏ノ認可ヲ得ルコト
- 四 入浴ハ毎回人々ノ最後ニシ浴場ハ消毒後投棄スルコト
- 五 保菌者ハ五日毎ニ探便檢菌スルコト
- 六 飲食物ノ調理ニ從事セシメサルコト
- 七 無菌ノ通知アル迄前各項ノ取締ヲ受クルコト

第六例 愛媛縣 (大正二年訓令第四十九號發布)

- 一 止ムヲ得サル場合ノ外成ルヘク旅行セサルコト
- 二 便所食器ハ成ルヘク別ニスルコト
- 三 排泄物ハ時々藥物消毒ヲ施行スルコト
- 四 寢具食器モ時々煮沸又ハ日光消毒ヲ施行スルコト
- 五 菌排泄ニ必要ナル醫療ヲ受ケシムルコト

第七例 島根縣 (大正五年訓令第二十五號發布)

- 一 保菌者ニ對シテ菌排泄ニ必要ナル醫療ヲ受ケシムルコト
- 二 保菌者ノ糞便ハ患者ノモノト同一ノ消毒方法ヲ爲スコト
- 三 寢具便所飲食用器具ハ家人ト區別シ消毒ヲ行ハシム
- 四 可成旅行ヲ爲サシメサルコト

二 病原保有者ニ關スル調査表

第一表 自大正七年 至大正九年 三ケ年間に於ケル腸チフス病原體保有者檢査成績 (京都府)

種類	成績	年次			合計
		大正七年	大正八年	大正九年	
健康病原保有者	陽性	五六一	二一三〇	一〇〇五	三三九六
健康病原保有者	陰性	一八	二二	三七	七六
快復期患者	陽性	二八九	五〇四	四一七	一、二一〇
快復期患者	陰性	〇・七一	一一六	〇・三〇	〇・八一
檢査人員百	陽性	五・八六	四・〇一	八・一四	五・九一
付陽性	快復期患者				

備考 一、健康病原體保有者調査ハ市部ニ於テ患者發生ノ都度其ノ家族及ヒ交通、飲食其他ノ關係アリト認ムヘキ者ニ就キ行ヒタルモノ
 二、快復期患者保菌調査ハ市内ニ於ケル私立病院傳染病室及ヒ市部接續町村ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容セラレタル患者ニシテ快復期ニ向ヒタル者ニ就キ施行シタルモノ

第二表 腸チフス患者治療後ノ菌排泄期間調 (自明治四十五年 至大正九年) (大阪府)

病名	檢査人員	期										計	無菌		
		二日	三日	五日	七日	八日	九日	十日	十三日	十四日	二十五日				
腸チフス	一、四三二	三	三	二	一	一	四	四	二	二	二	二	一	一八	一、四一四
「バラチフス」	一九五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一九四
計	一、六二七	三	三	三	一	一	四	四	二	二	二	二	一	一九	一、六〇八

備考 排泄期間ハ傳染病院隔離病舎ヨリ臨床上治療ト認メ糞便ヲ送附シ來レル日ヲ起算點トス

検査箇所	検査人員	陽性	陰性	中	備考
南條郡今庄村	一、八〇五	三三	一、七七三	九八・二三	大正八年七月検査
今立郡河和田村	六五六	二八	六二八	九五・七四	同 八月検査
福井縣師範學校	二一〇	五	二〇五	九五・六三	同 十月検査
足羽郡社村	六六	三	六三	九五・四五	同 大正九年九月検査
福井高等女學校	一〇六	三	一〇三	九五・〇九	同 大正十年一月検査
計	三、〇六六	七四	二、九九二	九五・五九	

右検査ハ一町村部落等ヲ區劃指定シ調査シタルモノニアラサルモ、孰モ多數ノ患者發生シ病毒ノ蔓延ヲ防止セムカ爲メ檢便ヲ行ヒ其ノ成績ヲ表シタルモノナリ

(参考)

腸チフス菌「菌」バラチフス菌排泄期間

大正十年八月(内務省衛生局調査)

本調査ハ陸軍省道廳府縣帝國大學醫學部醫學專門學校傳染病研究所府縣立其ノ他公立病院赤十字社北里研究所等ニ於テ調査シタルモノヲ蒐集シ参考ノ爲茲ニ採録セルモノナリ

内容

- 第一表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ糞便内菌排泄期間
- 第二表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ尿中菌排泄期間
- 第三表 腸チフス患者發病ヨリノ菌排泄期間
- 第四表 腸チフス菌(健康保有者)發見後ノ菌排泄期間

- 第五表 腸チフス患者検査人員ニ對スル治癒後(解熱後)病原體保有者
 - 第六表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ病原體保有者男女別
 - 第七表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ病原體保有者年齢別
 - 第八表 「バラチフス」患者治癒後(解熱後)ノ糞便内菌排泄期間
 - 第九表 「バラチフス」患者治癒後(解熱後)ノ尿中菌排泄期間
 - 第十表 「バラチフス」患者検査人員ニ對スル治癒後(解熱後)ノ病原體保有者
 - 第十一表 「バラチフス」患者治癒後(解熱後)ノ病原體保有者年齢別
- 備考 治癒後ニ於ケル菌排泄期間ニ就キテハ多クハ解熱時ヨリ起算セルモ時ニ起算日ヲ記載セルモノハ左ノ如シ
- 京都市立傳染病院ニテハ解熱後三日—五日大阪府及北海道小樽區ニテハ臨床上治癒ト認メタル日ヨリ起算ス

第一表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ糞便内菌排泄期間(其一)

検査箇所	検査人員	陽性	陰性	中	備考
北海道	六	不明	不明	不明	
大阪府	七	二二	二〇	二二	
長野縣	四	一九	一八	一九	
島根縣	一	三	一	三	
岡山縣	九	一七	一四	一七	
廣島縣	不明	二五	二〇	二五	
香川縣	一	四	一	四	
九大學部第二内科(尿尿)	一八	四〇	三一	四〇	
岡山醫學專門學校	一	一	一	一	
佐賀市	一	一	一	一	
佐世保市	四	一	一	一	
名古屋市	四	一	一	一	
立城東病	一	一	一	一	
計	五二	三五	二二	三五	
百分率	四・一〇	二七・三三	三〇・五〇	二七・一七	
	三・五〇	二二・八	二二・八	二二・八	
	四・一八	九・五四	四・一八	四・一八	
	二・三六	二・三六	二・三六	二・三六	

期間	北海道	大阪府	長野縣	島根縣	岡山縣	廣島縣	香川縣	九大醫學部 第二內科 泌尿科	岡山醫學 專門學校	佐賀市	佐世保市 傳染病院	名古屋 市立東病 院	計	百分率
四十日以内	一													
四十五日以内														
五十日以内														
六十日以内														
七十日以内														
八十日以内														
九十日以内														
九十一日以上														
計	四	一八	五二二	七	四五	二二七	二四	一三七	一六	四九	八九	一四一	一、二六九	一〇〇・〇〇
														〇・一六
														〇・〇八
														〇・二四
														〇・三九
														〇・六三
														〇・九五
														一・五八
														二〇
														一一〇

第一表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ糞便内菌排泄期間(其二)

期間	陸軍省醫務局 (四十一年四十三三年)	愛媛縣	北里研究所	計	百分率
一週間以内	一四〇			一四〇	二一・〇六
二週間以内	二〇〇			二〇〇	三〇・〇三
三週間以内	一一二			一一二	一六・九八
四週間以内	七三			七三	一〇・六〇
五週間以内	三五			三五	五・三〇
六週間以内	四二			四二	五・九八
七週間以内	三四			三四	四・六一
八週間以内	一〇			一〇	一・三六
九週間以内	一〇			一〇	一・三六
十週間以内	三			三	〇・四一
十一週間以内	五			五	〇・六八
計	六七五			六七五	一〇〇・〇〇

期間	人数	百分率
十二週間以内	二五	〇・六八
十三週間以内		〇・二七
十四週間以内		
十五週間以内		
十七週間以内		
十九週間以内		
約四ヶ月	一	〇・一四
計	六七五	一〇〇・〇〇

第一表 腸チフス患者治癒後解熱後ノ糞便内菌排泄期間(其三)和歌山縣

期間	人数	百分率
一週間	二	七・〇八
二週間	三	一四・三五
三週間	四	四・五三
四週間	五	一・九一
五週間	六	〇・九五
六週間	七	〇・二四
七週間	十	〇・二四
八週間	十	〇・二四
九週間	十	〇・二四
十週間	十	〇・二四
十一週間	十	〇・二四
十二週間	十	〇・二四
十三週間	十	〇・二四
十四週間	十	〇・二四
十五週間	十	〇・二四
十六週間	十	〇・二四
十七週間	十	〇・二四
十八週間	十	〇・二四
十九週間	十	〇・二四
二十週間	十	〇・二四
計	四一九	一〇〇・〇〇

附 長期菌排泄ノ例(大正十年七月 赤十字社)
一 二十四歳ノ女 大正六年八月腸チフスニ罹患今日迄四ヶ年糞便中ニ排泄ス

一 十三歳ノ男 大正九年十月罹患大正十年三月迄五ヶ月間糞便中排泄ス
 一 二十七歳ノ女 大正九年十二月罹患尿中ニ今日迄排出ス大正十年六月化膿性肋膜炎ヲ併
 發シ滲出液中ニ腸チフス菌ノミヲ證明ス尙咯痰中ニモ腸チフス菌ヲ證明ス糞便中ニハ發病
 三週ニシテ一回菌ヲ證明ス
 一 十一歳ノ女外人 二年前腸チフスニ罹患今年六月迄糞中ニ菌ヲ排泄ス

第二表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ尿中菌排泄期間其二

日	香川縣	名古屋市立傳染病院	北里研究所	計	百分率	
						五日
五	以內			一	一〇〇.〇〇	
四	以內			一	一〇〇.〇〇	
三	以內			一	一〇〇.〇〇	
二	以內			一	一〇〇.〇〇	
一	以內			一	一〇〇.〇〇	
計	六	一	四	一一	一一〇.〇〇	

第二表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ尿中菌排泄期間其二

日	陸軍	省	京都市立病院	計	百分率	
						五日
二	以內	八		八	二〇.五	
一	以內	五		五	一三.九	
計	一	一三	三	一七	三三.三	

第三表 腸チフス患者發病ヨリノ菌排泄期間

(駒込病院ニ於ケル患者五一六名ニ就テノ調査)

第	發病ヨリノ週間	其ノ週間ニ於ケル検査人員百ニ對スル菌排泄者	百分率							
				一週	二週	三週	四週	五週	六週	七週
一	週	一	一〇〇.〇〇							
二	週	一	二〇.〇〇							
三	週	一	二〇.五							
四	週	一	二〇.五							
五	週	一	二〇.五							
六	週	一	二〇.五							
七	週	一	二〇.五							
八	週	一	二〇.五							
九	週	一	二〇.五							
十	週	一	二〇.五							
計	一	一六	一〇〇.〇〇							

發病ヨリノ週間	糞便中		尿中
	糞便	尿	
第一週	二・三	一・二	
第二週	一・八・五	一・三・四	
第三週	八・一	一・三・六	
第四週	五・七	二・五・九	
第五週	五・二	一・七・八	
第六週	五・一	二・七	
第七週	五・一	九・一	
第八週	七・九	一・四・三	
第九週	六・〇	二・二	

附 解熱後ニ於テハ第三週ヲ過レハ菌ノ排泄ハ劇減スルモ尙患者ノ約一〇%ニ於テハ排泄ナス

第四表 腸チフス菌健康保有者發見後ノ菌排泄期間

週	大阪府	栃木縣	愛媛縣	計	百分率
第一週	一・九	一	〇	二・九	一六・八七
第二週	七	二	〇	九	一六・二七
第三週	三	二	一	六	一三・九五
第四週	五	一	二	八	一六・八七
第五週	一	一	三	五	一八・六〇
第六週	一	一	三	五	一八・六〇
第七週	一	一	三	五	一八・六〇
第八週	一	一	三	五	一八・六〇
第九週	一	一	三	五	一八・六〇
計	四六	七	一九	七二	一〇〇・〇〇

第五表 腸チフス患者検査人員ニ對スル治療後(解熱後)ノ病原體保有者

患者検査人員	菌排泄者	患者百ニ對スル排菌者
大陸軍府省	六七九	四三・三六
長野縣	一・四三二	一・二六
和歌山縣	一・〇六六	四八・九七
岡山縣	二・六三二	一五・九二
香川縣	八八	五・一四
愛媛縣	一一二	二五・八九
九大醫學部第二內科	八二	一一・三三
北海道小樽區	三三三	四二・四一
北上市立傳染病研究所	一〇一	三・九六
神戶市立傳染病研究所	一九三二	四・九七
北里研究所	一、九三二 五七	八二・四五

第六表 腸チフス患者治療後(解熱後)ノ病原體保有者男女別

五日以内	廣島縣		佐世保市傳染病院		計	百分率	
	男	女	男	女		男	女
五日以内	一四	二一	七	一〇	二二	二二	一四・六九

計	廣島縣		佐世保市傳染病院		計		百分率	
	男	女	男	女	男	女	男	女
十五日以内	四	九	一	一	五	〇	三五・七六	三四・九七
二十日以内	一	四	一	二	二	四	一四・五五	一六・七八
二十五日以内	一	九	一	二	二	四	一三・三三	九・七八
三十日以内	六	九	一	二	一	三	六・六七	九・〇九
三十五日以内	三	六	一	二	四	〇	四・八五	六・九九
四十日以内	三	三	一	一	四	四	二・四二	二・八〇
四十五日以内	一	三	一	一	二	四	一・三三	二・八〇
五十日以内	一	一	一	一	二	二	三・〇三	〇・七〇
六十日以内	一	一	一	一	二	二	一・三三	〇・七〇
七十日以内	一	一	一	一	二	二	〇・六一	〇・七〇
八十日以内	一	一	一	一	二	二	〇・六一	〇・七〇
九十日以内	一	一	一	一	二	二	〇・六一	〇・七〇
百日以上	一	一	一	一	二	二	一・〇〇	一・〇〇
計	一一	二二	一六	一五	三二	三一	一〇・〇〇	一〇・〇〇

第七表 腸チフス患者治癒後(解熱後)ノ病原體保有者年齢別

年齢	神戸市立傳染病院	名古屋市立城東病院	計	百分率
二十歳	五	一	六	一〇・一三
三十歳	二	二	四	三〇・八〇
四十歳	四	三	七	三二・三三
五十歳	二	二	四	一六・四六
計	一三	一六	二九	

年齢	百分率
五十一歳以上迄	六・三三
五十一歳	五・〇六
計	一〇・〇〇

第八表 「バラチフス」患者治癒後(解熱後)ノ糞便内菌排泄期間

期間	香川縣	九州大學醫學部小樽院	佐世保市立傳染病院	名古屋市立城東病院	計	百分率	京都市立傳染病院	神戸市立傳染病院	合計	百分率
五日以内	一	一	一	一	四	二五・〇〇	二	一	三	四四・〇〇
十日以内	二	一	一	一	五	一四・二九	三	一	四	四四・〇〇
十五日以内	一	一	一	一	四	一〇・七一	三	一	四	四四・〇〇
二十日以内	一	一	一	一	四	二五・〇〇	三	一	四	四四・〇〇
二十五日以内	一	一	一	一	四	一〇・七一	三	一	四	四四・〇〇
三十日以内	一	一	一	一	四	一〇・七一	三	一	四	四四・〇〇
三十五日以内	一	一	一	一	四	一〇・七一	三	一	四	四四・〇〇
七十九日以内	一	一	一	一	四	一〇・七一	三	一	四	四四・〇〇
計	三	一	一	一	六	二八・〇〇	六	三	一五	一〇〇・〇〇

第九表 「バラチフス」患者治癒後解熱後ノ尿中菌排泄期間

期間	京都市立京都病院	名古屋市立城東病院	計	百分率
一週以内	一	一	二	七・一四
二週以内	一	一	二	二一・四三
三週以内	一	一	二	五七・四四
計	三	三	六	